オーディオ実験室収載

fidata HFAD10-UBX の導入(10)
—MQA-CD 再生(1)—

１．はじめに

前報(1)で MQA-CD 再生の目途が立ちましたので、MQA-CD 再生の音質を評価します。

２．fidata HFAD10-UBX の試聴情報

接続は、前報(1)のとおりです。

HFAS1-S10←HFAD10-UBX（to Host B 端子）

HFAD10-UBX（to Device for Audio A 端子）→Brooklyn DAC+

試聴対象の MQA-CD は、下記のものとします。

Universal Music　UCCA-40001

バッハ　無伴奏チェロ組曲第 1 番・第 3 番・第 5 番

ピエール・フルニエ（チェロ）

Universal Music UCCG-40010

ブラームス　ピアノ協奏曲第 2 番変ロ長調作品 83

ヴィルヘルム・バックハウス（ピアノ）

カール・ベーム指揮ウィーンフィル

Universal Music CCG-40007

マーラー　交響曲第 5 番

ゲオルグ・ショルティ指揮シカゴ交響楽団

Universal Music UCCG-40005

ブルックナー　交響曲第 4 番《ロマンティック》

カール・ベーム指揮ウィーンフィル

３．fidata HFAD10-UBX の試聴結果

バッハの無伴奏チェロ組曲は 1960 年～1961 年録音、ブラームスのピアノ協奏曲第 2 番は 1967 年録音、マーラーの交響曲第 5 番は 1970 年録音、ブルックナーの交響曲第 4 番は 1970 年録音です。いずれもオリジナルから MQA-CD にエンコードされたもので、再生中、Brooklyn DAC+の表示は 352.8KHz となっています。

今回は、録音年代やレーベルに対応して、Brooklyn DAC+での位相変転を試みます。

バッハの無伴奏チェロ組曲は、MQA-CD の発売が Universal Music レーベルですが、オリジナルレーベルは ARCHIV です。同じマスターのアナログ盤はありませ

んが、来日時のライブ収録のアナログ盤があり、音色や演奏スタイルがよく似ています。Brooklyn DAC+での位相変転を行いますと、音の焦点があって凝縮した演奏のようになり、とても 1960 年の録音のようには思えません。
ブラームスのピアノ協奏曲第 2 番は、MQA-CD の発売が Universal Music レーベルですが、オリジナルレーベルは DECCA です。重厚なバックハウスのピアノと緻密なベーム指揮ウィーンフィルの演奏が聴きどころです。Brooklyn DAC+で位相変転を行いますと、ウィーンフィルの音の焦点があって凝縮した演奏になり、バックハウスのピアノに一層の重みが加わります。
マーラーの交響曲第 5 番は、MQA-CD の発売が Universal Music レーベルですが、オリジナルレーベルは DECCA です。出だしのトランペットから打楽器、低弦の下りの迫力があります。Brooklyn DAC+で位相反転しますと、続きの楽章でも、音が澄んで、金管、打楽器、低弦のうるささがなくなり、迫力が真に迫ってきます。
ブルックナーの交響曲第 4 番《ロマンティック》は前報(1)で動作確認に使用したものです。MQA-CD の発売が Universal Music レーベルですが、オリジナルレーベルは LONDON です。対応するアナログ盤がありますが、その雰囲気を残しており、Brooklyn DAC+で位相反転しますと、音が澄んで、アナログ盤を DECCA カーブで位相反転して聴いたときの音に近づいてきます。
これまでは、PC 用ドライブから HFAS1-S10 にリッピングして再生していましたが、HFAD10-UBX から読み出すストリーミング再生でも音質が確保されることが分りました。また、MQA-CD にリマスタリングされても、アナログマスターの位相を継承していることが分りました。

４．まとめ

HFAS1-S10 と HFAD10-UBX の組み合わせによる CD 再生は、これまでの HFAS1-S10 と PC 用ドライブと USB ハブの組み合わせによる CD 再生と一線を画すものです。古いアナログマスター時代からの MQA-CD が位相反転により、音の焦点があって定位も明瞭になります。

以上